ご　挨　拶

関東医真菌懇話会が発足して20回の節目を迎えることができました。この20年間に世話人を引き受けてくださった先生方をはじめとし、座長を務めたり、シンポジウムで貴重なご意見をいただいたり、一般講演で新しい研究のご発表をしてくださったり、ご討論に参加くださいました諸先生方、そして幹事の先生方には心より御礼申し上げます。

本懇話会が発足した当時の細かい経緯は、岩田和夫名誉教授（東大）の寄稿文に詳しく書かれていますが、この会は先生のご企画で、多少基礎的な研究に重きをおいた、学会とは違ったもう少し肩のこらない、若い参加者も発言しやすいような会としてスタートしたとお伺いしています。そして、そのお考えはその都度世話人を引き受けてくださった各先生方に受け継がれ、かなりの努力のうえに、それぞれのお考えも加えて、その本来の目的は十分に果たされて来たといってよいでしょう。その結果、参加者も毎回130名を下回る乙とはほとんどなく、討論も活発であり、乙の種の勉強会としては地味ながらも長続きし、存在感のある貴重な懇話会として成長しました。

この20年の聞には、免疫学をはじめとし、分子生物学や遺伝子研究などの目覚しい発展があり、その流れのなかで医真菌学領域も日進月歩を続けています。しかし、その一方でこれまで長年培われてきた医真菌学の基本に関する知識が、多少おろそかにされている傾向を感じさせられる乙とがままあります。そこでこの機会に古くて新しい基本的な方法や考え方の重要性を改めて感じていただき、次の21回以降の本懇話会のさらなる発展につなげたいと思い、記念講演を企画いたしました。

今後とも関東医真菌懇話会への皆様方の暖かいご支援を賜りたくお願い申し上げる次第です。

1999年5月

関東医真菌懇話会事務局
直　江　　史　郎

あとがき

本懇話会を企画した岩田和夫名誉教授（東大）が初代の事務局長でありましたが、その後事務局は宮治誠教授（千葉大）、山口英世教授（帝京大）と受け継がれてきました。そして山口教授のご推薦で、僭越ながら直江がこの重要な役目をお預かりして参りました。

今回、20周年記念会を企画いたしました所、記念誌を作る事も持田製薬（株）の担当の方から勧められ、次の事務局を受け持つ先生にご負担にならないように配慮し、私の最後の仕事とさせていただきました。いろいろご批判もあろうかと存じますが、これまでの記録を主な目的としたあまり華美にならぬようなものを作るべく努めました。過去に世話人を経験されました先生方には、お忙しい中随想をお書きいただき誠に有難うございました。この場をお借りして御礼申し上げます。

なお、記念誌作成に当たり、持田製薬（株）ならびに（株）メジカルセンスのご協力をいただきましたことを記し、感謝の意に代えさせていただきます。

最後になりましたが、本懇話会がこのように長年月を無事に開催してこられましたのも、ひとえに持田製薬（株）の厚いご支援の賜物であり、深甚の謝意を表します。　（直江記）